



文学部教育学科
模擬授業風景

学科(専攻)相談コーナー風景



CAMPUS キャンパストピックス TOPICS

堀正和先生が 瑞宝小綬章を受章



医療福祉学部部の堀正和講師が平成19年度の春の叙勲で、瑞宝小綬章を受章されました。先生は昭和35年に愛知県立名古屋養正学校に赴任して、耳が聞こえない子供たちの教育方法の改善、聾乳幼児の教育相談、小中学校へのインテ

グレーション(統合)に心血を注がれました。昭和54年の養護学校教育義務法の施行にあたり、48年から愛知県教育委員会が養護学校10校の新設、就学指導体制の整備、訪問教育や小中学校との交流教育の先導的試みの企画運営などに努められました。昭和61年からは県立佐織養護学校校長、県教育委員会特別教育課長、県立名古屋盲学校校長、また愛知県公立高等学校校長会副会長などの要職に就き、平成9年定年退職。その後、県教育サービスセンター

常務理事を経て、14年に本学医療福祉学部開設事務に着任。現在は「障害児の教育」「コミュニケーション技能」などの科目を担当されています。先生は今回の受章について、「特殊教育の拡充期という時代にも恵まれましたが、何となくとも皆さまのおかげです。今年から法改正により特別支援教育が施行され、すべての子供が地域の小中学校で学ぶ、一人ひとりのニーズに応じたインクルーシブ(包括的)な教育が指向されることになったことが、一番うれしいことです」と笑顔で話されました。



淑徳生5人が参加 世界バトントワリング 大会で3位に



ムで、本学からは3年生の岩井香央梨、神谷友梨、中村円香と、この春に高校を卒業した深谷美海、水嶋えりか(愛知淑徳大学)の5人が参加しました。

部活動とは異なる環境やメンバーとの練習は戸惑うことも多かったようですが、8か月に及ぶ練習で次第に打ち解けあい、演技の息も合うように。カナダでは大舞台に挑むプレッシャーと緊張の中、これまで応援してくれた両親や先生方、友人らの大きな支えが後押しとなって、自信を持って演技を行いました。他の部門の日本人選手や海外の選手と交流できたのも、大きな成果となったようです。

第2回 オープンキャンパスに 3238人が来場



第2回オープンキャンパスを、7月28日(土)・29日(日)、長久手・星が丘両キャンパスにて開催しました。2日間、3238人(付き添い者は除く)と、高校生や保護者ら多数の来場がありました。東海4県はもちろん、北は北海道から南は九州・福岡まで、全国各地から多くの参加者を迎え、本学への関心の高さが伺えました。

当日は、全体説明会や模擬授業、学科(専攻)相談コーナー、キャンパスツアー等を開催。参加者は教員やスタッフの言葉に耳を傾けたり、初めて接する特殊な施設や機材に目を輝かせていました。中でも、毎年好評の模擬授業には本年度も多数の受講者が見られ、人気のある授業では立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。各学科(専攻)コースの模擬授業では、理科室での科学実験やブランド戦略をテーマにした講義、国際ボランティアプログラムでの体験談を在学学生が自ら発表する等多彩な内容で興味を引きました。また、全学部生が受講できる全学共通履修科目の言語活用科目やコンピュータ活用科目、会計科目、2006年9月に開設した「コミュニケーション」(CCC)の模擬授業も実施。

専門的な大学講義が実際に受講できる貴重な機会とあって、参加者は真剣な眼差しで授業に参加していました。他にも、学科(専攻)相談や入試相談を始め、大学生活や奨学金についての学生生活相談、卒業後の就職先や進路について個別相談、海外留学について個別相談ができる留学相談等の各種相談コーナーでは、充実した4年間を過ごすために、どのようにすればよいのかを熱心に聞く参加者の姿が多数見受けられました。また、昨年度に続いて「河合塾講師による小論文対策講座」を各キャンパスで開催。11月24日(土)・25日(日)に実施される公募制推薦入試(自己推薦型)の小論文についての傾向や対策が事細かに説明されました。こちらにも多くの高校生が集まり、必死にメモを取る姿が印象的でした。



大学院説明会に 100人が来場



個別相談風景

2008年4月に、既存の研究科を統合再編し、さらに充実する大学院教育。この新体制となる大学院について担当教員と直接相談ができる「大学院説明会」を、オープンキャンパスと同じ日程で開催しました。

当日は、教員による個別の相談が行われ、興味のある参加者が100人来場されました。学内のみならず学外からの来場者も多く、期待の高さが伺えました。





ミニ体験授業「民族衣装体験」



CAMPUS TOPICS

キャンパストピックス



オープンスクールに 約2500人が来校

今年も5月最後の土曜日である28日に、一学期最大の行事であるオープンスクールを開催しました。

今年の春すべてが完成した中高新キャンパスへの期待や、昨年度から始まった完全中高一貫体制に対しても大きな関心が寄せられており、昨年同様、2500人近くの親子の方が来校されました。

全体会では、まず新校舎における生徒の生き生きとした様子を紹介するビデオ「夢

に向かって」を上映、学校長あいさつ、3分間スピーチ、バトン部演技、沖縄研修レポートと盛りだくさんのプログラムで参加者の関心を集めました。

その後、校内見学に移り、キャンパス全体が多くの小学生と保護者で賑わいました。昨年同様、中1・中2の教室および特別教室では各教科毎にミニ体験授業(百人一首、民族衣装体験、数学パズル、理科実験、英会話、織物、ミュージックベル、コンピュータ)を実施。今年

韓国人留学生が 「日本語研修プログラム」に参加



留学生と交流しようと60人以上の日本人学生が交流会に参加。交流会の後もグループに分れ、大須や名古屋城へ出かけた



国際交流クラブと茶道部の共催で、研修参加者の皆さんに茶道を経験してもらった

2校合同参加は今年で2回目です。

留学生はレベル別の少人数クラスで日本語を学び、書道・華道・陶芸といった日本文化も体験。週末には京都にフイールドトリップに行き、清水寺、金閣寺、銀閣寺などを訪れ、八ツ橋作りも体験しました。

また、研修の初めに開催された交流会を通して日本人学生と知り合い、一緒に名古屋市内観光へ出かけたたり、料理を作ったりして、国際交流を深めました。

短い期間でしたが、参加した学生にとって、たくさんの友達をつくり、いろいろな経験をし、思い出深い研修になったことと思います。

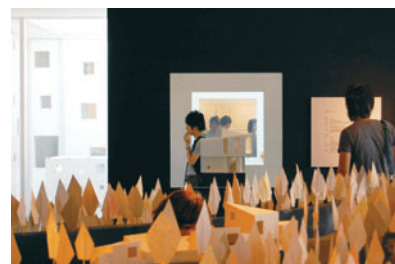


ギャラリー間巡回展 「アトリエ・ワン/千葉学」展



アトリエ・ワン展

7月22日～8月5日、長久手キャンパス8号棟5階においてギャラリー間巡回展「アトリエ・ワン/千葉学」展が開催されました。若手建築家として人気の高いアトリエ・ワ



千葉学展

ンと千葉学のカップリング展で、現代日本の建築デザイン潮流をリードする両者の活動を概観する格好の展覧会でした。

アトリエ・ワンは住宅作品の20分の1模型を地形も合わせて展示。素材も実際の住宅の素材感をリアルに再現しており、のぞき込むとまるでその家の中に入り込んだような感覚でした。低く抑えられた高さのおかげで、しゃがんだり立ったりといった行為が誘発される展示でした。

千葉学はスケールの違う模型をその周辺環境とともに再現。千本以上の樹木を配した巨大な敷地を巡ると、あたかも山中に迷い込んだかのようでした。

両者に共通するのは、模型によってできる限り建築とその周囲の状況を追体験できるような工夫を凝らしていること。どちらも設計の過程において周辺環境と建築の関係性を重視していることがうかがえる展示となっていました。

会場は例年通り、本学都市環境デザインコースの学生たちがデザインから施工まで行いました。ホームページで制作過程を逐次アップするなど、広報にも力を入れたおかげで入場者は1743人にも。学生たちも、自分たちの制作した会場に多数の来場者を迎えることができ、貴重な経験となったことでしょう。

浅野敬志先生が 学会賞を受賞



大学院ビジネス研究科の浅野敬志准教授は5月12日、日本経営分析学会に投稿した論文「経営者の業績予想における期待マネジメントと利益マネジメント」が高く評価され、同学会賞を受賞されました。

算期の初期時点でのように業績予想を行い、期中ではその予想値をどのように修正するのか、またその予想値が経営者の決算行動にどのように影響するのかについて実証分析して、その結果を論述されています。

今回の先生の受賞をお喜びすると共に、今後ますますのご活躍をお祈りします。



中高新校舎披露の会に 1600人の卒業生が来校

3月に竣工した中学・高校新校舎を卒業生の方に観ていただく「新校舎披露の会」が6月9日(土)に開かれました。古くは高等女学校から、最近では大学の卒業生まで、愛知淑徳の長い歴史を物語るように約1600人の同窓生が新校舎に集合。中庭では在校生によるバトン部の演技、ギター・マンドリン部や吹奏楽の演奏が迎えられました。今回は全体会が行わず、仲のいい旧友同士が教室や各施設を見て回る形を取りました。同窓会や同級会、また旧教職員を囲んでクラス会を開く卒業生もいました。カフェテリアに用意した昼食には長蛇の列ができ、テーブルを囲んで談笑する姿も見られました。卒業生には、懐かしさも楽しい一日となったようです。

9月8日(土)、来年度高校入試のための学校見学会が本校センテナリー・ホールで行われ、301人の出席者がありました。昨年は6月の第1回には193人、9月の第

中学生を対象に 第1回 学校見学会



2回には200人が出席しています。センテナリー・ホールでは学校長の学校説明に始まり、学校紹介ビデオ、ギター・マンドリンクラブの演奏、卒業生と在校生の話が続いたあと、来校者は新装なった校内を見学

その後、クラブ活動を参観したり、個別面談の入試相談を受けたりました。来年度を最後に本校の高校入試は廃止されますが、愛知淑徳への入学を希望する中学生は多く、受験者数も今年度とほぼ同数が見込まれます。来校者も淑徳を第一希望とする中学生が多く、個別相談の多くは推薦試験に関するものでした。

小林理事長が 科学技術・学術審議会 専門委員に就任



9月21日(金)、長久手キャンパスに企業の人事担当者をお招きして、企業や仕事について詳しく知る就職支援イベント「企業Fes」が昨年に続き、開催されました。「これまでにない就職活動を支援するイベントにしたい」という視点から学生が自ら企画・



学生の企画による 就職イベント 「企業Fes」開催



運営に携わり、準備をしてきました。「緊張せずにリラックスして参加して欲しい」とあってリクルーススタイルではなく私服での参加を呼びかけ、学生がざくばらんに話せる雰囲気をつくり、疑問を解消する場を提供しました。夏休み中にもかかわらず、

予想を上回る200人以上の学生が参加。第1部の講演会「就職活動をすすめるにあたって」は立ち見が出るほどの盛況ぶり。今年の就職戦線についての説明に、学生は真剣な眼差しで聞き入っていました。第2部の会場には、ご招待した企業10社が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中、企業側からは仕事内容や求める人材像について、一方学生からは普段なかなか聞けない疑問など質問が飛びかかっていました。参加した学生からは「気軽に話ができよかった」との感想がありました。就職活動をスタートさせる学生にとって、その後の人生に大きく影響する職業選択について深く考えるよい機会となりました。

毎年夏の恒例となった「愛知県私立中学校進学フェア」は今年で第8回目、本校を含む県内の私立中学校21校が参加して、7月28日(土)、29日(日)の2日間、松坂屋南館にて行われました。



2007 愛知県私立中学校 進学フェア開催



中学受験に対する世間の関心は引き続き高いものがあり、昨年と同様、土日開催に加え、1日目に各局のニュースで取り上げられたこともあって、全体の入場者は2日間で延べ7632人(昨年比10

9%)と大変な盛況でした。また、8階ホールでの個別相談とあわせ、今年は1階のオルガン広場で制服展示や各校クラブのステージ発表が行われ、より多くの方に私立中学校を知っていただくよい機会になりました。猛暑の中、各校のブースには、入試や校風について熱心に相談する保護者や児童がひっきりなしに訪れ、一日中相談会場全体が熱気に包まれていました。毎年のことながら、受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童と保護者の方の参加も多く、本校については昨年度から始まった完全中高一貫体制についての期待や質問が多く聞かれました。